

目 次

プログラム

| | |
|--------------------------------------|----|
| 大会日程表 | 2 |
| 連絡事項 | 3 |
| Microsoft PowerPoint® でファイルを作成する際の注意 | 4 |
| 各種会議のお知らせ | 5 |
| 学会賞授与式および受賞講演 | 5 |
| 日本昆虫学会第71回総会案内 | 5 |
| 懇親会案内 | 5 |
| 公開シンポジウム | |
| 第1日目(9月17日) | 6 |
| 第2日目(9月18日) | 7 |
| 第3日目(9月19日) | 8 |
| 小集会 | |
| 第2日目 第1部(9月18日) | 9 |
| 第2日目 第2部(9月18日) | 11 |
| 一般講演を含む全講演 | |
| 第1日目(9月17日) | 13 |
| 第2日目(9月18日) | 15 |
| 第3日目(9月19日) | 18 |
| 大会参加者名簿 | 21 |
| 大会会場の周辺図と交通経路 | 25 |
| 受付・一般講演・小集会の会場案内図 | 27 |

講演要旨

| | |
|--------------|-----|
| A会場(一般講演) | 31 |
| B会場(一般講演) | 41 |
| C会場(一般講演) | 53 |
| D会場(一般講演) | 65 |
| E会場(一般講演) | 77 |
| 公開シンポジウム | 89 |
| 小集会 第2日目 第1部 | 99 |
| 小集会 第2日目 第2部 | 109 |

大会役員

大会会長：藤山静雄（信州大・理）
副会長：中村寛志（信州大・農）
会計：別府 桂（信州大・教育）
幹事：市野隆雄（信州大・理）・東城幸治（信州大・理）上田昇平（信州大・山岳総研）・須賀 丈（長野県環境保全研究所）・田下昌志（松本むしの会）・平沢伴明（信州甲虫研究会）・丸山 潔（松本むしの会）・福本匡志（松本むしの会）・降旗進一郎（信州甲虫研究会）・宮澤 豊（長野県松本県ヶ丘高校）・四方圭一郎（飯田市美術博物館）・福富宏和（石川県ふれあい昆虫館）

大会期間中(9月16日～19日)の連絡先
(講演取り消しなど)

〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1
信州大学理学部藤山研究室 (事務局)
Tel: 0263-37-2498
e-mail: kontyu1@shinshu-u.ac.jp

日本昆虫学会第71回大会

(2011)

プログラム



大会日程表

| 月日 | 時間 | A会場 | B会場 | C会場 | D会場 | E会場 |
|----------------|-------------|------------------------------------------------|-----------------------------|-------------------------------------------------|-------------------------------|----------------------------------------------------|
| 9月17日 (土) | 9:00~12:00 | 分類 | 害虫管理 生物学的防除 多様性・保全・環境 | 進化・遺伝・種分化 | 行動・行動生態 | 生態・分子生態 |
| | 12:00~13:00 | Entomological Science 誌電子投稿のための説明会 (C会場) | | | | |
| | 13:00~15:00 | 公開シンポジウム S1A (A会場) / 公開シンポジウム S1B (B会場) | | | | |
| | 15:10~15:40 | 学会賞授与および受賞講演 (A会場) | | | | |
| | 15:45~17:15 | 総会 (A会場) | | | | |
| | 18:30~20:30 | 懇親会 (ホテル 松本東急イン) | | | | |
| 9月18日 (日) | 9:00~12:00 | 分類 | 多様性・保全・ 環境 | 進化・遺伝・種分化 系統・生物地理・ 化石 | 行動・行動生態 | 生態・分子生態・ 生活史 |
| | 13:00~16:00 | 公開シンポジウム S2A (A会場) / 公開シンポジウム S2B (B会場) | | | | |
| | | 小集会 | | | | |
| | 16:15~18:15 | A会場 | B会場 | C会場 | D会場 | E会場 |
| | | 温暖化によらない (かもしれない)チョウの分布 拡大(第2回) | 国際社会性昆虫 学会日本地区 小集会 | 第15回 地表面性甲虫 談話会例会 | 寄生性ハチ類の つどい | 第13回 昆虫の季節適応 談話会 |
| | 18:30~20:30 | F会場 | G会場 | H会場 | I会場 | |
| | | 好蟻性昆虫 小集会 | 日本半翅類学会 | 昆虫の生息域外保全 と野生復帰を考える 小集会 | 第10回穿孔性 昆虫を語る会 | |
| | 18:30~20:30 | A会場 | B会場 | C会場 | D会場 | E会場 |
| | | 里山昆虫談話会 | 昆虫の家族をめ ぐる進化生態学 第3回 | 第20回昆虫担当 学芸員協議会総会 「博物館は研究用標 本を保存すべきか?」 | ハナバチ談話会 | 昆虫分類学若手懇 談会「比較形態学の重要 性-系統関係と形態進 化の理解への貢献- |
| | | F会場 | G会場 | H会場 | I会場 | |
| 9月19日 (月・祝) | 9:00~12:00 | 分類 | 多様性・保全・ 環境 | 系統・生物地理・ 化石 | 有用昆虫・昆虫機能 形態・組織 発生・進化発生 | 生活史生理・ 生化学 |
| | 13:00~16:00 | 公開シンポジウム S3A (A会場) / 公開シンポジウム S3M (松本市 M ウイング) | | | | |

会期：平成23年9月17日(土)～19日(月・祝)

会場：信州大学

松本市旭3-1-1

連絡事項

1. 受付 9月17日(土)午前8時30分から、信州大学全学教育機構第1講義棟で行います。
2. 講演時間 一般講演は15分の講演時間(発表12分、質疑3分)を厳守願います。予鈴10分、本鈴12分、終鈴14分30秒で時間をお知らせします。講演取り消しがあった場合は時間を繰り上げず、空き時間とします。
3. 座長 発表終了者には、次の講演の座長をお願いします。午前の最初の講演の座長は大会事務局で対応します。
4. 液晶プロジェクターによる発表 Microsoft PowerPoint[®]でファイルを作成し、コンパクトディスク(CD)に保存してください。発表の前にPCルーム(2階23番講義室)で、PowerPoint 2010 for Windowsのインストールされたノートパソコン(OSはWindows 7[®])を用いて、ご自身のプレゼンテーションの動作チェックを必ず行って下さい。**動作チェックをすませたCDのみ発表にお使い頂けます。**PCルームは毎日8:30に開きます。初日の2番目までの講演者は前々日までにメールの添付ファイルでお送り頂ければこちらでチェック・準備をいたします(大きなファイルは添付不可)。講演される方は、ご自身の発表の30分前にCDを会場内の係員にお渡しください。ただし、その日の初めの講演に関しては15分前といたします。開始後は講演者ご自身でパソコンを操作して下さい。また、申し出ていただければ、係員がパソコンを操作することもできます。講演終了後にCDをお受け取りください。CDは650MBあるいは700MBのCD-Rのみとします(CD-RW、USBフラッシュメモリーは不可)。講演者の質疑応答中に次講演のCDを立ち上げますので、質疑応答中の再投影はできません。ファイルを作成する際には次頁の「Microsoft PowerPoint[®]でファイルを作成する際の注意」をお読みください。
5. 公開シンポジウム シンポジウムは全て公開です。一般の方も、自由にご参加いただけます。大会参加費はいただきません。
6. 小集会 運営はそれぞれの世話人の責任で行ってください。すべての会場に固定液晶プロジェクターが常備されています。ノートパソコンは事前に申し込まれている場合のみ貸し出しますので、世話人の方は御注意ください。事前申し込みしていない場合にはご自身での準備をお願いします。
7. 懇親会 9月17日(土曜:第1日目)午後18時30分より松本東急インにて行います。
8. 名札 事前申し込みをされた方には講演要旨とともに名札をお送りいたします。当日参加の方には受付で名札をお渡しします。名札カードで懇親会申込者を区別しますので、懇親会会場では必ず名札をお付けください。
9. 喫煙 建物内はすべて禁煙です。会場周辺の指定の喫煙場所(灰皿のあるところ)をお願いします。
10. 駐車場 キャンパス内の駐車スペースはきわめて限られます。自家用車での参加はご遠慮ください。
11. 昼食 学会期間中17日(土)~19日(月・祝)は旭会館(生協食堂)が営業しています。また、大学周辺にはコンビニや食堂がありますが、なるべく生協をご利用下さい。
12. 荷物 大会本部に荷物スペースを準備します。ただし、クロークではありませんので、利用される方はご自身の責任で荷物を置いてください。また、荷物スペースのご利用は「一般講演の時間帯」に限らせていただきます。

Microsoft PowerPoint® でファイルを作成する際の注意

OS や PowerPoint® に様々なバージョンが存在するため、投影時にトラブルが予測されます。本大会においてプレゼンテーションに使用するコンピューターの OS は Windows 7®、アプリケーションは Microsoft PowerPoint® 2010 です。ディスク作成後、別コンピューターの Microsoft PowerPoint® 2010 for Windows においてファイルが正常に動作することを確認して頂けるとトラブルを最小限にできます。PC ルーム (2 階 23 番講義室) に発表用と同様のコンピューターを用意しましたので最終確認にお使ください。また、以下にご注意ください。

- ・写真などの画像を使用する場合、PowerPoint® 上で縮小、回転などをせず、画像ソフト等を用いて実際に使用するサイズ・解像度 (150dpi 程度) に縮小してから PowerPoint® に挿入してください。ファイルサイズの大きな画像を使用すると、表示できなかつたり、動作が極めて遅くなつたりします。
- ・動画の使用は、講演の本題に深く関わる場合にとどめてください。動画を使用する場合は、Windows Media Player が標準で再生できる形式に限ります (.wmv や .mpeg など)。また、ppt ファイル、動画ファイルがともに CD 上に存在し、リンクが維持されていることを、予めご確認ください。
- ・コンピューター・液晶プロジェクター共に画面の解像度は XGA (1024×768) です。このサイズよりも大きい場合にはスライドの一部が表示できないことがあります。
- ・原則として音を出すことは禁止します。
- ・事前にご自身でウイルスチェックを行ってください。
- ・緑色を背景として赤色の文字を映写するといったスライドは避けてください。
- ・大会本部のコンピューターを長時間占有しての大規模な再構成、CD-R の作成は、他の講演者のご迷惑になりますので、お断りします。

円滑な運営のために、CD-R の取扱は以下の点にご注意ください。

- ・1 講演につき 1 枚の CD を用い、CD には講演用のファイル以外は入れないでください。
- ・ファイル名は原則「講演番号 .ppt/.pptx」としてください。特に Macintosh をご使用の方は拡張子 (ファイル名最後の「.ppt」「.pptx」) を付けることを忘れないでください。
- ・CD-R は注意して扱い、ケースに入れてお持ちください。CD は本体またはケースに講演番号とお名前をお書きください。不測の事態に備えてバックアップデータもお持ちください。
- ・CD-R にデータを保存する時は、必ず Windows 用のフォーマット (IS09660) で、ファイナライズ (ソフトによっては「CD のセッションを閉じる」などの表現が使われています) を行ってからにしてください。これを怠った場合ファイルが開けなくなります。

各種会議のお知らせ

大会前日 9月16日(金) 理学部講義棟

| | |
|---------------|---------------------------------------------------------------|
| 13:00 ~ 14:00 | 日本昆虫目録編集委員会 (3番講義室) 電子化推進委員会 (4番講義室) 日本の昆虫編集委員会 (6番講義室) |
| 14:00 ~ 15:00 | 編集委員会 (3番講義室) 自然保護委員会 (4番講義室) |
| 15:00 ~ 17:30 | 評議員会 (3番講義室) |

学会賞授与式および受賞講演 (第1日目)

(A会場: 20番講義室) 9月17日(土) 15:10 ~ 15:40

(1) 2011年度学会賞

受賞者: 杉浦宗則、今福道夫、大谷 剛 (受賞講演者は今福道夫会員)

受賞論文: Munenori SUGIURA, Michio IMAFUKU and Takeshi OHTANI (2010) Skipping flights in *Ypthima* butterflies (Lepidoptera: Nymphalidae). *Entomological Science* 13: 183-190.

受賞者: Vsily V. GREBENNIKOV and Richard A. B. LESCHEN (受賞講演はありません)

受賞論文: Vsily V. GREBENNIKOV and Richard A. B. LESCHEN (2010) External exoskeletal cavities in Coleoptera and their possible mycangial functions. *Entomological Science* 13: 81-98.

(2) 2011年度若手奨励賞 (受賞講演はありません)

受賞者: 徳田 誠

研究タイトル: 「植食性昆虫の系統分類学および進化生態学的研究」

日本昆虫学会 第71回総会 (第1日目)

(A会場: 20番講義室) 9月17日(土) 15:45 ~ 17:15

懇親会 (第1日目)

(松本東急イン) 9月17日(土) 18:30 ~ 20:30

公開シンポジウム S1A 9月17日(土) 13:00～15:00

「2020年の生物多様性と昆虫学～COP10の成果から何が求められるのか～」

(A会場：20番講義室)

企画者・世話人：須賀 丈（長野県環境保全研究所）

- S1A-1 岸本年郎（自然環境研究センター）：インベントリ・生態系モニタリングと昆虫学
S1A-2 五箇公一（国立環境研究所）：外来種対策と昆虫学～COP10の甘い幻想と厳しい現実～
S1A-3 中村康弘（日本チョウ類保全協会）：市民による保全活動と昆虫学
コメント 高桑正敏（神奈川県立生命の星・地球博物館）

公開シンポジウム S1B 9月17日(土) 13:00～15:00

「形態学とはなにか～ケーススタディ：その「主張」と「実際」～」

(B会場：12番講義室)

企画者・世話人：町田龍一郎（筑波大院・生命環境）・東城幸治（信州大・理）

- S1B-1 町田龍一郎（筑波大院・生命環境）：全体論的論考の重要性 – 六脚類における胚と胚膜の機能分化の進化的変遷 –
S1B-2 内船俊樹（横須賀市自然・人文博）：ガロアムシ目で観察された付属肢亜基節 – subcoxal theory に迫る –
S1B-3 吉澤和徳（北海道大院・農）：「ツノゼミ ありえない誤り」& 「翅基構造の比較／機能形態学」
S1B-4 畠山正統（農業生物資源研）：膜翅目の幼虫イボ脚は脚にして脚にあらず – 比較形態と分子マーカーに基づく腹脚起源の解釈 –

「Wiley-Blackwell, Entomological Science 共催 Author Seminar」

日 時：2011年9月17日（土曜日）12:00～13:00
場 所：C会場（先着50名の方にお弁当をご用意します）
演 者：Entomological Science, Editor-in-Chief 沼田英治
内 容：
・ Entomological Science の現状について
・ 電子投稿についてのご案内
・ 質疑応答

セミナーの後17:00まで電子投稿の体験コーナーを設置いたしますのでこの機会に是非お試しください。

公開シンポジウム S2A 9月18日(日) 13:00～16:00

「山岳昆虫の多様性と保全」

(A会場：20番講義室)

企画者・世話人：中村寛志（信州大・農AFC）

- S2A-1 伊藤建夫（信州大・理）：山岳昆虫の遺伝的多様性とルーツ – DNA から高山チョウの遺伝的多様性、山系間の遺伝的分化やそのルーツを探る –
- S2A-2 東城幸治（信州大・理）：標高傾度と系統進化 – 山岳溪流にすむ水生昆虫 –
- S2A-3 曾田貞滋（京都大・理）：山岳昆虫の適応と進化 – 山岳域のオサムシの適応進化と種多様性 –
- S2A-4 中村寛志（信州大・農AFC）：高地生態系の環境評価 – 昆虫群集による高山帯の環境変動モニタリングの試み –
- S2A-5 須賀 丈（長野県環境保全研）：山岳域の生態系の保全 – マルハナバチと草原植生 –

公開シンポジウム S2B 9月18日(日) 13:00～16:00

「大震災・津波により被災した昆虫標本の救済」

(B会場：12番講義室)

主催：日本昆虫学会昆虫担当学芸員協議会・西日本自然史系博物館ネットワーク

企画者・世話人：金沢 至（昆虫担当学芸員協議会）・友国雅章（国立科博）

- S2B-1 藤井千春（岩手県博）：被災現地での昆虫標本レスキューの報告
- S2B-2 大原昌宏（北海道大・総合博）：津波被害を受けた甲虫標本レスキューについて
- S2B-3 斉藤明子（千葉県立中央博）：津波により被災した甲虫と鱗翅類標本の救済
- S2B-4 上田恭一郎（北九州市立自然史・歴史博）：東日本大震災津波による被害を受けた鱗翅目昆虫の修復
- S2B-5 金沢 至（大阪自然博）：震災・津波の被害を受けたトンボ・鱗翅類の標本の救済
- S2B-6 野村周平（国立科博）：国立科学博物館による被災標本レスキューの取り組み

公開シンポジウム S3A 9月19日(月・祝) 13:00～16:00

「日本の昆虫分類学、創成期の人と標本」

(A会場：20番講義室)

企画者・世話人：大原昌宏（北海道大・総合博）・矢後勝也（東京大・総合研究博）

- S3A-1 矢後勝也（東京大・総合研究博）：東京大学所蔵の昆虫標本とその歴史
- S3A-2 大原昌宏（北海道大・総合博）：北海道大学の昆虫学の系譜
- S3A-3 多田内 修（九州大院・農）：九州大学の昆虫学コレクション
- S3A-4 吉富博之（愛媛大・ミュージアム）：愛媛大学の昆虫学：石原 保
- S3A-5 友国雅章（国立科博）：国立科学博物館の昆虫標本収集と研究

公開シンポジウム S3M 9月19日(月・祝) 13:00～16:00

「子どもたちへの昆虫教育と保護・保全」

(松本市中央公民館 M ウイング)

主催：日本昆虫学会自然保護委員会

企画者・世話人：藤山静雄（信州大・理）・田下昌志（松本むしの会）

- S3M-1 大場信義（大場ホテル研究所）：小中学校、地域連携によるホテルの里づくり
- S3M-2 市川憲平（姫路市立水族館）：放棄田ビオトープを利用した環境教育
- S3M-3 那須野 雅好（三郷昆虫クラブ）：昆虫少年を育む～三郷昆虫クラブの活動から～
- S3M-4 吉田保晴（ハッチョウトンボを育む会）：子どもと取り組むハッチョウトンボの保護活動
- S3M-5 清水敏道（東御市教育課）：北御牧でのオオルリシジミ保護活動

小集会（第2日目 第1部） 9月18日(日) 16:15～18:15

「温暖化によらない(かもしれない)チョウの分布拡大（第2回）」（A会場：20番講義室）

世話人：井上大成（森林総研・多摩）

- W2A1-1 ○間野隆裕（豊田市矢作川研）・山田昌幸・高橋匡司（名古屋昆虫同好会）：矢作川流域におけるウスバシロチョウの分布拡大～田中蕃（2006）を中心に～
- W2A1-2 田下昌志（松本むしの会）：長野県におけるチョウの分布拡大の状況について
- W2A1-3 針谷 毅（相模の蝶を語る会）：神奈川県平野部におけるコムラサキの分布拡大について
- W2A1-4 平井規央（大阪府大院・生命）：日本におけるクロマダラソテツシジミの分布拡大

「国際社会性昆虫学会日本地区小集会」（B会場：12番講義室）

世話人：辻 和希（琉球大）・中田兼介（京都女子大）・前川清人（富山大）

- W2B1-1 服部 充（信州大院・総工）：真社会性アブラムシの巧妙な防衛戦略～兵隊と警報フェロモン～
- W2B1-2 ○小川浩太・三浦 徹（北海道大院・環境科学）：エンドウヒゲナガアブラムシに見られる生活型特異的な飛翔器官形成
- W2B1-3 土田 努（富山大・先端ライフサイエンス研）：共生細菌が担うアブラムシの環境適応

「第15回 地表性甲虫談話会例会」（C会場：13番講義室）

世話人：藤澤貴弘（大阪府大院）

- W2C1-1 ○小粥隆弘・上條隆志（筑波大院・生環）・田中健太（筑波大・菅七）：植生や環境要因が地表徘徊性甲虫へ与える影響
- W2C1-2 ○奥崎 稜（京都大・理）・高見泰興（神戸大・人間発達環境）・曾田貞滋（京都大・理）：同所的オオオサムシ亜属種間の体サイズ差の意味：資源分割より優先される生殖隔離
- W2C1-3 ○八尋克郎（滋賀県立琵琶湖博）・堀 繁久（北海道開拓記念館）・石井 実（大阪府大）・石谷正宇（大阪産業大）：日本産環境指標ゴミムシ類データベース「里山のゴミムシ」の公開

「寄生性ハチ類のつどい」（D会場：42番講義室）

世話人：渡辺恭平（神戸大院・農）

- W2D1-1 渡辺恭平（神戸大院・農）：寄生蜂の同定簡便化が切り開く今後の寄生蜂研究
- W2D1-2 ○松尾和典（九州大院・生資環）・徳田 誠（九州大・高推セ）・上地奈美（果樹研）・湯川淳一（九州大）：ハリオタマバエ族（ハエ目：タマバエ科）の寄生蜂の寄主範囲と寄生戦略
- W2D1-3 高須賀圭三（愛媛大・農）：スラウエシにおける寄生蜂研究－熱帯調査の苦労話－
- W2D1-4 三田敏治（東京農大・昆虫）：カマバチのカマの多様性と系統
- W2D1-5 山岸健三（名城大・農）：タマゴクロバチ科の形態的多様性と寄主

「第13回昆虫の季節適応談話会」（E会場：43番講義室）

世話人：田中一裕（宮城学院女大）

- W2E1-1 石栗陽一（青森県産業技術セ・りんご研）：リンゴ園におけるモモシクイガの生活史
- W2E1-2 ○松木伸浩・三田村敏正（福島農総セ）・田中一裕（宮城学院女大）・渡邊朋也（中央農研）：厳寒期の最高気温で決まるクモヘリカメムシの分布北限
- W2E1-3 泉 洋平（岡山大・植物研）：休眠誘導の違いがオオタバコガ休眠蛹の低温耐性に及ぼす影響

「好蟻性昆虫小集会」 (F 会場：53 番講義室)

世話人：小松 貴 (信州大・理)

- W2F1-1 ○清水加耶 (京都大・人環)・大久保忠浩 (関大一高)・乾 陽子 (大阪教育大・教養)・市岡孝朗 (京都大・人環)：オオバギ共生アリが好蟻性シジミチョウの食草利用に与える影響
- W2F1-2 金尾太輔 (九州大・昆虫)：マレー半島で採集された好白蟻性昆虫
- W2F1-3 丸山宗利 (九州大・博)：東南アジアにおけるヒゲブトオサムシ族 (甲虫目：オサムシ科) の多様性と種分類
- W2F1-4 ○小松 貴 (信州大・理)・森 英章 (自然研小笠原事務所)：小笠原好蟻性昆虫放浪記

「日本半翅類学会」 (G 会場：54 番講義室)

世話人：山田量崇 (徳島県博)

- W2G1-1 友国雅章 (国立科学博物館名誉研究員)：カメムシの標本構築と研究 – 科博での 35 年 – その他、一人一話で行います。

「昆虫の生息域外保全と野生復帰を考える小集会」 (H 会場：55 番講義室)

世話人：岸本年郎 (自然環境研究センター)

- W2H1-1 岸本年郎 (自然環境研究センター)：昆虫の生息域外保全と野生復帰を考える
- W2H1-2 浪花伸和 (環境省自然環境局野生生物課)：環境省における生息域外保全の推進について
- W2H1-3 中村康弘 (NPO 法人 日本チョウ類保全協会)：チョウ類における生息域外保全の現状と課題
- W2H1-4 ○石井 実・平井規央・坂本佳子 (大阪府大院・生命)：昆虫類の生息域外保全：草原性チョウ類でのモデル事業について

「第 10 回穿孔性昆虫を語る会」 (I 会場：56 番講義室)

世話人：梶村 恒 (名古屋大院・生命農学)

- W2I1-1 ○井手竜也 (九州大院・比文)・和智伸是 (九州大院・システム生命)・阿部芳久 (九州大院・比文)：アカガシ亜属を寄主とするタマバチ (膜翅目：タマバチ科) の分類・生態とアジアのタマバチの潜在的多様性
- W2I1-2 徳田 誠 (九州大・高推セ)：ゴール形成昆虫による植物細胞の延命・生長・増殖制御のメカニズム
- W2I1-3 大島一正 (基生研・生物進化)：リーフマイナーを用いた遺伝学：寄主適応形質の遺伝基盤に迫る

小集会（第2日目 第2部） 9月18日(日) 18:30～20:30

「里山昆虫談話会」 (A会場：20番講義室)

世話人：石井 実 (大阪府大院・生命)

- W2A2-1 ○坂本佳子・平井規央・石井 実 (大阪府大院・生命)：シルビアシジミの寄主植物選好性と共生細菌の感染状況および配偶行動
- W2A2-2 江田慧子 (信州大・農 AFC)：里山に生息する絶滅危惧種のシジミチョウの復活報告
- W2A2-3 村田浩平 (東海大・農)：九重・阿蘇地域におけるオオルリシジミを含む草原性のチョウの生態と保護

「昆虫の家族をめぐる進化生態学 第3回」 (B会場：12番講義室)

世話人：鈴木誠治 (北海道大院・農)・工藤慎一 (鳴門教育大院・学校教育)

- W2B2-1 ○工藤慎一 (鳴門教育大院・学校教育)・鈴木誠治 (北海道大院・農)：得をするのは誰？：親の提供物をめぐる攻防
- W2B2-2 鈴木紀之 (京都大院・農)：大きい卵ではなく栄養卵が進化した要因
- W2B2-3 細川貴弘 (産業技術総合研)：最初に食すは相伝の味～カメムシ類における腸内共生細菌の母子間伝播メカニズム

「第20回昆虫担当学芸員協議会総会：博物館は研究用標本を保存すべきか？」

(C会場：13番講義室)

世話人：金沢 至 (大阪市立自然史博)

- W2C2-1 広瀬義躬 (九州大)：証拠標本の保存の重要性 -あなたが発表した論文の内容が後世で無視されないために
- W2C2-2 沢田佳久 (兵庫県人と自然博)：証拠標本の保存と活用 -兵庫県立人と自然の博物館の場合-
- W2C2-3 田辺智隆 (戸隠地質化石博)：戸隠地質化石博物館の廃校利用
- W2C2-4 土屋慶丞 (鉏路市立博)：なぜ保存するのか伝える

「ハナバチ談話会」 (D会場：42番講義室)

演者および演題未定

「昆虫分類学若手懇談会：比較形態学の重要性 -系統関係と形態進化の理解への貢献-

(E会場：43番講義室)

世話人：松村洋子 (北海道大院・農)・関谷 薫 (筑波大院・生命環境)

- W2E2-1 ○松村洋子 (北海道大院・農)・関谷 薫 (筑波大院・生命環境)：趣旨説明
- W2E2-2 ○鈴木智也 (信州大院・総工)・東城幸治 (信州大・理)：半翅目昆虫類における「吸収型口器」獲得・進化の再考 -コオイムシ *Appasus japonicus* (半翅目, コオイムシ科) の比較発生学的研究から迫る吸収型口器形成の基本プラン-
- W2E2-3 関谷 薫 (筑波大院・生命環境)：コムシ目の比較発生学的研究 -内顎類の再検証-
- W2E2-4 松村洋子 (北海道大院・農)：ハムシ類の極端に長い交尾器の進化史 -成虫形態・形態形成の種間比較から-
- W2E2-5 新津修平 (首都大院・理工)：ミノガ類における翅退化機構の多様性を探る -比較発生学的アプローチ-

「寄主を操るネジレバネーその未知なる世界ー」 (F 会場：53 番講義室)

世話人：井坂友一 (信州大院・総工)

- W2F2-1 ○中瀬悠太・加藤 真 (京都大院・人環)：ネジレバネについての概要とネジレバネ研究の現状
- W2F2-2 佐山勝彦 (森林総研・北海道)：スズメバチネジレバネの生活史ー北海道における寄主利用ー
- W2F2-3 牧野俊一 (森林総研)：スズメバチネジレバネの寄生率とコガタスズメバチの巣サイズとの関係
- W2F2-4 ○中瀬悠太・加藤 真 (京都大院・人環)：ネジレバネによる寄主ハナバチの訪花行動の操作
- W2F2-5 ○井坂友一 (信州大院・総工)・市野隆雄 (信州大・理)：日本産ハチネジレバネ科の分子系統解析

「カマキリ学の解明に向けて」 (G 会場：54 番講義室)

世話人：渡部 宏 (近畿大・農)

- W2G2-1 安藤喜一 (弘前市)：カマキリ類の卵期の天敵オナガアシプトコバチの性比、寄生率調節及び生活史
- W2G2-2 ○三浦一芸 (広島大院・生物圏、近中四農研)・渡辺衛介 (広島大院・生物圏)：オオカマキリの性的共食い再考
- W2G2-3 山脇兆史 (九州大院・理)：衝突刺激に対するカマキリ防御行動の発現機構
- W2G2-4 ○渡部 宏・矢野栄二 (近畿大院・農)：カマキリの適応的な防衛戦略

「双翅学会」 (I 会場：56 番講義室)

世話人：中村剛之 (弘前大・白神自然環境研)

学会総会、および一人一話で行います

一般講演

第1日目 (9月17日 土曜) 午前

| | A会場 20番講義室 | B会場 12番講義室 | C会場 13番講義室 | D会場 42番講義室 | E会場 43番講義室 |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9:00 | A101 新部公亮 (日本ア ンリ・ファール会, 日本 昆虫協会) どくとるマンボウ昆虫展 | B101 ○Xu, Q.・Fujiyama, S.・Xu, H. (Graduate school, Shinshu Univ.) Pest control by enriching populations of natural enemies in organic farmings | C101 ○鶴崎展巨 (鳥取 大・地域)・Marshal Hedin (San Diego State Univ.)・ 田中 孟(鳥取大・地域)・ 戸田 守(琉球大・熱帯生 物圏研究セ) 琉球列島におけるギンボ シザトウムシとその近縁 種の染色体数と外部形 態の地理的分化 | D101 ○矢口 甫・中村 早寿・前川清人(富山大 院・理工) ネバダオオシロアリの初 期巣における栄養交換を 介した兵隊分化の調節メ カニズム | E101 ○藤井智久 (九州 大院・比文)・松尾和典 (九州大院・生環資)・阿 部芳久 (九州大院・比 文)・湯川淳一(九州大)・ 徳田 誠(九州大・高推 セ) 植物形態操作を介したハ ラビロクロバチの一種によ る高次捕食寄生回避戦略 |
| 9:15 | A102 吉武 啓・○中谷 至伸・吉松慎一・安田耕 司(農環研) 農業環境技術研究所 昆虫データベース統合イ ンベントリーシステムの紹 介 | B102 市田忠夫 (青森農 林総研) 寒冷地向き水稲品種で のコブノメイガの被害解 析 | C102 ○菊田尚吾 (北海 道大院・理)・藤山直之 (北海道教育大・旭川)・ 上野秀樹(新潟大・教)・ Sih Kahono・Dhian Dwibadra (インドネシア 科学院)・片倉晴雄(北海 道大院・理) バリ島において異なる食 草を利用しているニジュ ウヤホシテントウ地域集 団間の食草利用能力の 比較 | D102 ○大庭伸也 (京都 大・生態研)・工藤慎一 (鳴門教育大・学校教育) コオイムシ類における保 護オスに対するメスの産 卵選好性 | E102 ○小柳津 渉・小 松一磨(新潟大院・教)・ 草間理佳子・金子佑人・ 工藤起来(新潟大・教) 新潟市で捕獲されたコガ タスズメバチに寄生する スズメバチネジレバネの 出現消長 |
| 9:30 | A103 大金義徳 (東京農 大・昆虫) アミメカワゲラ亜科 (カワ ゲラ目:アミメカワゲラ科) の新たな分類形質の探 索 肛上板および雌生殖 器の有用性について | B103 ○柴尾 学・岡田 清嗣・田中 寛(大阪環 農水総研) 紫外光照射が施設ナス・ キュウリのミナミキイロア ザミウマの発生に及ぼす 影響 | C103 ○伏見速雄 (東京 大院・農)・岸本年郎(自 然研)・久保田耕平(東京 大院・農) 日本産アリガタハネカク シ属の系統関係と分布境 界域における近縁種間の 遺伝子流動 | D103 ○岡西宏之・藤崎 憲治(京都大院・農) ヤニサシガメは松脂を利用 して獲物の捕獲効率を 上昇させているのか? | E103 ○井上真紀・五箇 公一(国立環境研)・伊藤 文紀(香川大) 侵略的外来種アルゼン チンアリのスーパーコロ ニー間における闘争の優 劣関係 |
| 9:45 | A104 内船俊樹 (横須賀 市自然・人文博物館) 長崎市で発見したガロア ムシの一種について | B104 ○松尾和典 (九州 大院・生環)・上地奈美 (果樹研)・徳田 誠(九 州大・高推セ)・湯川淳一 (九州大) ダイズサヤタマバエ (ハ エ目:タマバエ科)に寄生 するヒメコバチ (ハチ目: ヒメコバチ科) の分類学 的再検討, および, 生活 史に関する考察 | C104 ○杉浦 溪・久保 田耕平(東京大・農) 山地性昆虫 オオトラフハ ナムグリ種群の系統と種 分化過程 | D104 ○佐藤和樹 (信州 大院・工)・藤山静雄(信 州大・理) シリアゲムシ類各種の交 尾行動の観察 | E104 ○吉岡弥生・本田 計一・中田まり子・大村 尚(広島大院・生物圏) マダラチョウ雄成虫のピ ロリジジンアルカロイドの 化学受容 |
| 10:00 | A105 ○田中宏卓 (琉球 大・農)・東浦祥光(山口 柑振セ)・上里卓己(沖縄 防技セ) <i>Phenacoccus solenopsis</i> の日本初確認 | B105 ○佐藤安志・上杉 龍士(野茶研・金谷) 日本に分布するシルベス トリコバチの遺伝的変異 | C105 ○楠目晴花 (信州 大院・工)・絹田将也・市 野隆雄(信州大・理) サラシナショウマ種内3 型間での送粉昆虫相の 相違と遺伝的分化 | D105 ○松本吏樹郎 (大 阪自然史博)・高須賀圭 三(愛媛大・農) ナガアシクモヒメバチ <i>Longitibia</i> sp. の寄生習 性 | E105 ○江田慧子・中村 寛志(信州大・農 AFC) ジョウザンシジミにおける 温度と发育速度の関係 |
| 10:15 | A106 ○奥寺 繁 (九州 大院・農)・林 正美(埼 玉大・教育) 日本産フタテンオオヨコ バイ属の分類学的研究 (カメムシ目:ヨコバイ科) | B106 ○渡部 宏・矢野 栄二(近畿大院・農) アブラムシ類の甘露の糖 成分がショクガタマバエ 成虫の寿命および繁殖に 与える影響 | C106 ○栗谷さと子 (信 州大院・工)・市野隆雄 (信州大・理) 標高傾度に沿ったウツボ グサの花形態および送粉 マルハナバチ相の変化 | D106 ○阿部陽介・前藤 薫(神戸大院・農) ギンケハラボソコマユバ チの体色変異が持つ生 態生理学的機能 | E106 西尾規孝 (長野県 上田市) 長野県東御市北御牧に おけるオオルリシジミの生 命表 |

第1日目 (9月17日 土曜) 午前 (続き)

| | A会場 20番講義室 | B会場 12番講義室 | C会場 13番講義室 | D会場 42番講義室 | E会場 43番講義室 |
|-------|-------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10:30 | A107 ○神代 瞬 (九州大院・生資環)・紙谷聡志 (九州大院・農) クワキヨコバイ属の分類形質にみられる多様な種内・種間変異 | B107 早坂大亮・○五箇公一・是永知子 (国立環境研) 水田メソコスムによる生物多様性影響評価 | C107 ○井坂友一 (信州大院・総工)・佐藤利幸 (信州大・理) 種特異的なナガシダハバチ属の分子系統と寄主植物の分布 | D107 ○石綿深志 (九州大院・比文)・広瀬義躬 (九州大)・阿部芳久 (九州大院・比文) ジャコウアゲハ卵に対する広食性タマゴコバチ属 <i>Trichogramma</i> (膜翅目: タマゴコバチ科)2種の寄主選択 | E107 ○嶋田敬介 (石川県立自然史資料館)・増岡裕大・前川清人 (富山大院・理) ヤマトシロアリ生殖虫におけるコロニーの発達に伴うβ-グルコシターゼ遺伝子発現量の変化 |
| 10:45 | A108 大原直通 (九州大院・生資環) 日本産ハンノヒメコバチ属 (カメシ目: ヨコバイ科)の分類学的研究 | B108 ○三田村敏正・荒川昭弘・岡崎一博・松木伸浩・山田真孝・岸 正広 (福島農総セ) 有機栽培水田におけるトウキョウダルマガエルの食性 -カエルはイネミズゾウムシの天敵になり得るか?- | C108 ○丸山宗利 (九州大・博)・小松 貴 (信州大)・Rosli Hashim (マラヤ大) 好蟻性ヒメサスライアリヤドリ族 (甲虫目: ハネカクシ科) の分類と適応放散の可能性 | D108 ○小松一磨・小柳津 渉・工藤起来 (新潟大院・教) ブラジルに生息するサタンアシナガバチのコロニー内の血縁構造 | E108 ○高須啓志 (九州大・農)・高野俊一郎 (植物防疫所) 侵入害虫キムネクロナガハムシの2系統と大発生 |
| 11:00 | A109 ○井上広光 (果樹研)・宇久田理恵 (沖縄農研七) 沖縄県のカンキツ上で発生したハマセンダンキジラミ (半翅目: キジラミ科) | B109 ○中西康介・村上大介・田和康太・沢田裕一 (滋賀県大・環境動物学研) 水田を繁殖場所として利用するアカネ属5種の個体数と水田環境との関係 | C109 ○藤江隼平・阿部陽介・熊川尚孝・櫻井厚司・筒井容子・前藤 薫 (神戸大・農) ギンケハラボソコムバチにおけるミトコンドリアDNA COI 領域の変異と単性系統の起源 | D109 宮野伸也 (千葉県立中央博) アシナガバチ幼虫のハンドレリング | E109 ○小林知里 (東北大・生命科学)・加藤 真 (京大・人環) オトシブミ科における植物加工様式と寄生蜂群集の関係 |
| 11:15 | A110 菊原勇作 (松山市役所・農林水産課) 日本産ブチヒメヘリカメムシ属 <i>Stictopleurus</i> について | B110 ○片山元気・立田晴記 (琉球大・農) 侵入水草は水草群落内に生息する動物相の多様性を低下させるか | C110 熊川尚孝・筒井容子・○前藤 薫 (神戸大院・農) ギンケハラボソコムバチの両性系統オスによる単性系統メスに対する求愛行動 | D110 ○小林紀絵 (新潟大院・教)・反町彩乃・松浦貴洋 (新潟大・教)・山口勇気 (新潟大院・自然科学)・岩西 哲 (森の学校キョロコ)・工藤起来 (新潟大・教) トゲズネハリアリのワーカーによる幼虫の認識 | E110 藏満司夢 (筑波大・生命環境) クビナガオトシブミ族2種に対する <i>Poropoea</i> 属卵寄生蜂の寄生状況 |
| 11:30 | A111 ○山田量崇 (徳島県博)・林 正美 (埼玉大・教) 日本産ムクゲカメムシ下目 (半翅目) の分類研究の現状と展望 | B111 ○吉村真由美 (森林総研・関西)・X. Tong (South China Agricul. Univ.)・福原晴夫 (新潟大・教)・J. Mo (Chinese Acad. Sci.)・楊 宗興 (東農工大・農) 中国における渓流性水生昆虫群集の流域酸性化による影響 | C111 ○横井智之 (岡山大院・環境)・米山泰知 (近畿大・農)・弘岡拓人 (九州大院・生資源)・香取郁夫 (近畿大・農) 寄生蜂イワタセイボウの雌に偏った性比 | D111 ○伊藤文紀 (香川大・農)・Rosli Hashim (マラヤ大)・Johan Billen (ルーベン大) 東南アジア産ジュズフシアリ属のコロニー構成と行動 (予報) | E111 ○新部一太郎・星川和夫 (島根大・生物資源) タイシヤクナガチビゴムシ <i>Trechiana yokoyamai</i> の生態学的研究 -食性解析と飼育法の検討- |
| 11:45 | | B112 八尋克郎 (滋賀県立琵琶湖博) カワウの巣から発見された昆虫類 | | D112 ○大家 輝・長谷川雄二 (兵庫県大・環境人間) ミツバチの視覚学習に対するフライトシミュレーターを用いた行動実験手法の開発 | E112 ○山下 聡 (京都市大)・安藤清志 (愛媛大)・伊藤 昇 (コニカミノルタ)・片山雄史 (愛媛大)・川那部真 (人と自然の環境研究所)・丸山宗利 (九州大・博)・保科英人 (福井大)・市岡孝朗 (京都市大) 東南アジア熱帯林における多孔菌類食性甲虫種構成の菌類間変異 |
| 12:00 | | | Entomological Science 誌電子投稿のための説明会 | | |

| 第1日目 (9月17日 土曜) 午後 | |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | 公開シンポジウム S1A (A会場) |
| | テーマ「2020年の生物多様性と昆虫学 – COP10の成果から何が求められるのかー」 企画者・世話人: 須賀 丈(長野県環境保全研究所) S1A-1 岸本年郎(自然環境研究センター): インベントリ・生態系モニタリングと昆虫学 S1A-2 五箇公一(国立環境研究所): 外来種対策と昆虫学 ~ COP10の甘い幻想と厳しい現実~ S1A-3 中村康弘(日本チョウ類保全協会): 市民による保全活動と昆虫学 コメント: 高桑正敏(神奈川県立生命の星・地球博物館) |
| 13:00 15:00 | 公開シンポジウム S1B (B会場) |
| | テーマ「形態学とはなにか~ケーススタディ: その「主張」と「実際」~」 企画者・世話人: 町田龍一郎(筑波大院・生命環境)・東城幸治(信州大・理) S1B-1 町田龍一郎(筑波大院・生命環境): 全体論的論考の重要性 – 六脚類における胚と胚膜の機能分化の進化的変遷 – S1B-2 内船俊樹(横須賀市自然・人文博): ガロアムシ目で観察された付属肢亜基節 – subcoxal theory に迫る – S1B-3 吉澤和徳(北海道大学昆虫体系学教室): 「ツノゼミ ありえない誤り」& 「翅基構造の比較/機能形態学」 S1B-4 畠山正統(農業生物資源研究所): 膜翅目の幼虫イボ脚は脚にして脚にあらず – 比較形態と分子マーカーに基づく腹部起源の解釈 – |
| 15:10 15:40 | 学会賞授与および受賞講演 (A会場) |
| 15:45 17:15 | 総会 (A会場) |
| 18:30 20:30 | 懇親会 (松本東急イン) |

| 一般講演 | | | | | |
|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第2日目 (9月18日 日曜) 午前 | | | | | |
| | A会場 20番講義室 | B会場 12番講義室 | C会場 13番講義室 | D会場 42番講義室 | E会場 43番講義室 |
| 9:00 | A201 ○金尾太輔 (九州大・昆虫)・K. Taro Eldredge (カンザス大)・丸山宗利 (九州大・博) 好白蟻性ハネカクシ Termitohospitini 族 (甲虫目: ハネカクシ科)の系統的位置 | B201 ○多田明世 (京大院・農)・菊池義智(産総研・生物プロセス)・Dmitry Musolin (St. Petersburg State Univ.)・細川貴弘・深津武馬(産総研・生物プロセス)・藤崎憲治 (京大院・農) ミナミアオカメムシと気候温暖化: 高温障害の要因は高温による共生細菌の減少である | C201 ○広瀬義躬 (九州大)・横山 岳(東京農工大・農)・松尾和典(九州大院・生資環・昆虫)・伴野 豊(九州大院・農) わが国におけるクワコの卵寄生蜂の再発見とその意義 | D201 ○湯川淳一 (九州大)・佐藤信輔(宮崎大・農)・徳田 誠(九州大・高推セ)・徐 環李(北京農大・昆虫) 最近の研究成果に基づく <i>Resseliella</i> 属タマバエ類 (ハエ目: タマバエ科)の分類と生態 | E201 ○河野勝行・飯田博之(農研機構・野菜茶業研) キャベツほ場のウツキコモリグモ個体数調査における落とし穴法と見取り法の比較 |
| 9:15 | A202 ○吉武 啓 (農環研)・宮原慎一郎(三重県桑名農政環境事務所)・西野 実・鈴木 賢(三重県農業研) 三重県で発見されたカタゾウムシ族 (コウチュウ目, ゾウムシ科)の1未記載種 | B202 ○三浦一芸 (近中四農研)・前藤 薫(神戸大・農)・東浦祥光(山口柑振セ) 微小寄生蜂を破壊しないでDNAを抽出する方法の検討 | C202 ○澁谷祐輝・後藤真里・土田浩治(岐阜大・昆虫生態)・鈴木俊文(ギフチョウの翔ぶ里山の自然を考える会) ギフチョウの遺伝的集団構造に関する研究 | D202 ○渡 康彦(芦屋大・臨床教)・田中一裕(宮城学院女子大・一般教) タマネギバエの温度周期での羽化リズム – 全暗(DD)と全明(LL)での感受期の比較 – | E202 ○吉野朋子・神戸崇・秋元信一(北海道大・農) エンドウヒゲナガアブラムシにおいて、長期間単為生殖を強制した2つの親系統と、それらの子孫クローンが示す産子能力の違い |
| 9:30 | A203 Tomas Lackner (The Hokkaido University Museum) Phylogeny of the Saprininae (Coleoptera: Histeridae) revealing interesting ecological shifts. | B203 ○佐々木隆行・山岸健三(名城大・農) 外来種タイワンタケクマバチの分布拡大と生態(3) | C203 ○上村佳孝・三本博之(慶應大・生物) ショウジョウバエ2種間の交尾器形態の違いによる生殖的隔離 | D203 ○田中一裕(宮城学院女子大・一般教)・渡康彦(芦屋大・臨床教) なぜ、タマネギバエは昼間の羽化を避けるのか? | E203 ○戸田正憲(北海道大・低温研)・屋富祖昌子(那覇市)・加藤 徹(北海道大院・理) 同じ寄主植物(クワズイモ)の花を利用するタロイモショウジョウバエ2種系と3種系における行動・繁殖生態の比較 |

第2日目(9月18日 日曜) 午前(続き)

| | A会場 20番講義室 | B会場 12番講義室 | C会場 13番講義室 | D会場 42番講義室 | E会場 43番講義室 |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9:45 | A204 大島康宏(栃木県博) <i>Liitinga</i> 属(鱗翅目:タテハチョウ科)の分類学的再検討 | B204 久松正樹(ミュージアムパーク茨城県自然博) 宝篋山山麓の野生ハナバチ | C204 ○長木伸章(東北大・生命科学)・戸田 守(琉球大・熱生研)・曾田貞滋(京大・理) リュウキュウアブラゼミの地域集団間における高度な遺伝的分化 | D204 ○鈴木紀之(京都大院・昆虫生態)・大澤直哉(京都大院・森林生態)・西田隆義(滋賀県大) 繁殖干渉の視点からクリサキテントウがスペシャリストであることを理解する | E204 ○金 旺奎(九州大院・生資環)・松永紀代子(筑紫野市)・松尾和典(九州大院・生資環)・湯川淳一(九州大) コナラハバリオレタマバエ(ハエ目:タマバエ科)の発見とその生態学的基礎情報 |
| 10:00 | A205 ○矢田 脩(九州大・博)・Braby, M. F. (Museum and Art Gallery of the Northern Territory) オーストラリアにおいて初めて記録されたカワカミシロチョウ <i>Appias albina infuscata</i> の分類と起源地(鱗翅目:シロチョウ科) | B205 ○高橋未奈・Radha Devkota Adhikari・宮永龍一(島根大・生物資源) ハマゴウを利用した海浜性ハナバチ類のモニタリングについて | C205 ○秋元信一・神戸崇・永井正生(北海道大院・農) 無性生殖性アブラムシに対する交雑起源説の検証 | D205 棚瀬 光・西山愛貴・小溝克己(鹿児島県立錦江湾高) オトシブミの卵をめぐる寄生蜂3種のマイクロな生存競争 | E205 ○徳田 誠(九州大・高推セ)・田中誠二・原野健一(農生研・大わし)・川浦香奈子・荻原保成(横浜市大) コムギへのオオムギ染色体導入がトノサマバタ幼虫の選好性と発育に及ぼす影響 |
| 10:15 | A206 江田信豊(南山大・総合政策) <i>Phaos</i> 属と <i>Metacrias</i> 属の系統関係の推定(鱗翅目:ヒトリガ科) | B206 ○山口勇気(新潟大院・自然)・酒井朋子・小林紀絵(新潟大・教)・岩西 哲(森の学校キョロコ)・工藤起来(新潟大・教) 新潟県十日町地域の里山におけるアリ相 | C206 ○神戸 崇・秋元信一(北海道大院・農) 核遺伝子の解析から推定された無性生殖型アブラムシの起源 | D206 ○棚橋薫彦(産総研)・細谷忠嗣(九州大)・矢崎健一・高梨琢磨(森林総研)・深津武馬(産総研) コクワガタの共生微生物はいかにして垂直伝達されるか? | E206 ○富沢 章・林 和美・石川卓弥・福富宏和・大宮正太郎(石川県ふれあい昆虫館) 石川県におけるシタバニハゴロモの生態 |
| 10:30 | A207 ○吉松慎一(農環研)・上里卓己(沖縄防除セ)・指宿浩・湯田達也(鹿児島農業開発セ) 日本初発生の長距離移動性害虫アフリカシロナトウ(鱗翅目:ヤガ科) | B207 ○岸本圭子(京大)・兵藤不二夫(岡山大)・橋本佳明(兵庫大)・近 雅博(京都市)・越智輝雄(豊能町)・山根正気(鹿児島大)・石井勲一郎(JAMSTEC)・松岡真如(高知大)・山村則男(地球研)・市岡孝朗(京大) 景観規模の熱帯雨林の減少が糞虫・アリ類の多様性に与える影響 | C207 ○遠藤真太郎(信州大院・総工)・市野隆雄(信州大・理) 随伴アリ種の異なるヤノクチナガオオアブラムシにおけるCHC組成の相違 | D207 ○山口綾野・小汐千春(鳴門教育大院)・立田晴記(琉球大・農)・工藤慎一(鳴門教育大院) キムネカミキリモドキの配偶行動と後脚アロメトリー | E207 ○笠井 敦(京府大院・応用昆虫)・山下幸司(京都農技セ・茶業研究所)・吉安 裕(京府大院・応用昆虫) チャットゲコナジラミの発育速度と産卵数 |
| 10:45 | A208 ○上里卓己・瑞慶山 浩・島谷真幸(沖縄防除セ)・渡嘉敷唯彰(沖縄宮古普及課)・山口綾子・兒玉博聖(沖縄防除セ)・若村定男(京都学園大) 琉球列島におけるアフリカシロナトウの大発生-多良間島を中心に- | B208 坂本拓道(兵庫大)・橋本佳明(兵庫大/人博)・大橋瑞江(兵庫大)・遠藤知二(神戸女学院大)・市岡孝朗(京大)・池野英利(兵庫大) 画像処理によるアリ類とアリ擬態グモの類似度指標の開発-アリ類の多様性はアリグモ類の多様性の鋳型となっているか:その1 | C208 ○嘉田修平・兼子伸吾・井鷲裕司(京大)・澤田宗一郎(京都市)・藤崎憲治(京大院・農) 翅多型性を持つコバネナガカメムシ科日本産種の分子系統樹を用いた生態的特性の比較 | D208 橋本晃生(首都大・生命) ホソアシチビイッカク(甲虫目:アリモドキ科)の前胸背板突起の構造と機能 | E208 ○増田倫士郎・中尾史郎(京府大・応用昆虫)・山尾あゆみ(和歌山大院・景観昆虫) ヤスマツアメンボ <i>Gerris insularis</i> (Motschulsky) の分散多型と生活環 |
| 11:00 | A209 ○広渡俊哉(大阪府大院・生命)・黒子 浩(岸和田市) 日本産トガリホソガ属 <i>Anatrachyntis</i> (カザリバガ科)の分類(予報) | B209 ○橋本佳明(兵庫大・人博)・坂本拓道・池野英利(兵庫大)・遠藤知二(神戸女学院大)・市岡孝朗(京大) Morphometric 手法による擬態とモデル群集の形態マッチング度の評価-アリ類の多様性はアリグモ類の多様性の鋳型となっているか:その2- | C209 ○紙谷聡志(九州大院・農)・神代 瞬(九州大院・生資環) クワキヨコバイ属の多様性解明への新たなアプローチ:地理情報システム(GIS) | D209 鈴木誠治(北海道大院・農) ヨツボシモンシデムシのオスの闘争行動に“経験がものをいう”か? | E209 ○田中幸一(農環研)・村田浩平・松浦朝奈(東海大・農) 外来生物の移入地環境への適応:ブタクサハムシにおける光周性の地理的変異 |

| 第2日目 (9月18日 日曜) 午前 (続き) | | | | | |
|-------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| | A会場 20番講義室 | B会場 12番講義室 | C会場 13番講義室 | D会場 42番講義室 | E会場 43番講義室 |
| 11:15 | A210 杉本美華 (九州大・総合研博)・○三枝豊平 (福岡市) クロウスタビガとウスタビガの幼生期の比較研究 | B210 レゴックアイン・○緒方一夫・細石真吾 (九州大・熱帯農学研究セ) ベトナムでのサトウキビ圃場のアリ群集の多様性 (ハチ目:アリ科) | C210 ○高須賀圭三 (愛媛大・農)・吉田 哉 (山形県博)・Putra Nugroho (ガジャマダ大・農)・松本 吏樹郎 (大阪自然史博) マダラコブクモヒメバチ <i>Zatyopa albicoxa</i> のインドネシア初記録および新寄主記録 (Ichneumonidae, Pimplinae, <i>Polysphincta</i> -group) | D210 ○坂本佳子・平井規央・石井 実 (大阪府大院・生命) シルビアシジミとヤマトシジミの雄の配偶行動の比較 | E210 ○西村知良 (日本大・生物資源)・沼田英治 (京都大院・理) ヒメマルカツオブシムシにおける野外個体の産卵数の推定 |
| 11:30 | A211 ○小林茂樹 (大阪府大院・昆虫)・山田量崇 (徳島県博)・広渡俊哉 (大阪府大院・昆虫) クスノキ科の葉・茎に潜るコハマグリガ (ホソガ科) の分類と潜孔習性 | B211 ○横井洋平 (香川大・農)・頭山晶都 (七福)・伊藤文紀 (香川大・農) ルリアリは何故アルゼンチンアリと共存できないのか | C211 ○三田敏治 (東京農大・昆虫)・松本由記子 (生物研)・松村正哉 (九州沖縄農研) <i>Haplogonotopus</i> 属2種の寄主と地理的遺伝構造 (ハチ目:カマバチ科) | D211 ○萩原康夫 (昭和)・秋野順治 (京都工織)・坂本洋典 (北海道大)・北條 賢 (琉球大) ミヤマシジミ幼虫はアリの随伴経験をもとに樹状刺毛長を変化させている | E211 ○笹野翔伍・星川和夫 (島根大・生物資源) オオヒョウタンゴミムシの生活史 I. 成虫の地表での活動 |
| 11:45 | | B212 笹川浩美 (FAIS 研究開発部・JST 日本科学未来館, JSF 科学技術館) 昆虫類の化学コミュニケーション & 光コミュニケーションとヒトの科学コミュニケーション | C212 ○粕谷菜月・三井偉由・木村正人 (北海道大院・環境) 寄生蜂 <i>Ganaspis xanthopoda</i> の分類学的検討 | D212 ○小松 貴 (信州大・理)・上田昇平 (信州大・山岳研)・Rosli Hasim (マラヤ大・理)・市野隆雄 (信州大・理) アリ植物オオバギ属 <i>Macaranga</i> 上に生息するカスミカメムシ科一種の採餌生態 | E212 ○石谷正宇 (大阪産業大)・白川勝信 (芸北高原の自然館)・水田國康 (広島市) 自然再生事業地霧ヶ谷湿原におけるチョウ類による環境評価について - 第2報 - |

| 第2日目 (9月18日 日曜) 午後 | |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 公開シンポジウム S2A (A会場) | |
| | <p>テーマ「山岳昆虫の多様性と保全」 企画者・世話人: 中村寛志 (信州大・農)</p> <p>S2A-1 伊藤建夫 (信州大・理): 山岳昆虫の遺伝的多様性とルーツ - DNA から高山チョウの遺伝的多様性、山系間の遺伝的分化やそのルーツを探る -</p> <p>S2A-2 東城幸治 (信州大・理): 標高傾度と系統進化 - 山岳溪流にすむ水生昆虫 -</p> <p>S2A-3 曾田貞滋 (京都大・理): 山岳昆虫の適応と進化 - 山岳域のオサムシの適応進化と種多様性 -</p> <p>S2A-4 中村寛志 (信州大・農): 高地生態系の環境評価 - 昆虫群集による高山帯の環境変動モニタリングの試み -</p> <p>S2A-5 須賀 丈 (長野県環境保全研究所): 山岳域の生態系の保全 - マルハナバチと草原植生 -</p> |
| 公開シンポジウム S2B (B会場) | |
| 13:00 16:00 | <p>テーマ「大震災・津波により被災した昆虫標本の救済」 主催: 日本昆虫学会昆虫担当学芸員協議会・西日本自然史系博物館ネットワーク 企画者・世話人: 金沢 至 (昆虫担当学芸員協議会)・友国雅章 (国立科博)</p> <p>S2B-1 藤井千春 (岩手県博): 被災現場での昆虫標本レスキューの報告</p> <p>S2B-2 大原昌宏 (北海道大・総合博): 津波被害を受けた甲虫標本レスキューについて</p> <p>S2B-3 齊藤明子 (千葉県立中央博): 津波により被災した甲虫と鱗翅類標本の救済</p> <p>S2B-4 上田恭一郎 (北九州市立自然史・歴史博): 東日本大震災津波による被害を受けた鱗翅目昆虫の修復</p> <p>S2B-5 金沢 至 (大阪自然博): 震災・津波の被害を受けたトンボ・鱗翅類の標本の救済</p> <p>S2B-6 野村周平 (国立科博): 国立科学博物館による被災標本レスキューの取り組み</p> |

| 第2日目 (9月18日 日曜) 午後 (小集会) | | | | | |
|--------------------------|------------------------------------|-------------------------|------------------------------------------|--------------------|----------------------------------------------|
| | A会場 20番講義室 | B会場 12番講義室 | C会場 13番講義室 | D会場 42番講義室 | E会場 43番講義室 |
| 16:15 18:15 | W2A1 温暖化によらない(かもしれない)チョウの分布拡大(第2回) | W2B1 国際社会性昆虫学会日本地区小集会 | W2C1 第15回地表性甲虫談話会例会 | W2D1 寄生性ハチ類のつどい | W2E1 第13回昆虫の季節適応談話会 |
| | F会場 53番講義室 | G会場 54番講義室 | H会場 55番講義室 | I会場 56番講義室 | |
| 18:30 20:30 | W2F1 好蟻性昆虫小集会 | W2G1 日本半翅類学会 | W2H1 昆虫の生息域外保全と野生復帰を考える小集会 | W2I1 第10回穿孔性昆虫を語る会 | |
| | A会場 20番講義室 | B会場 12番講義室 | C会場 13番講義室 | D会場 42番講義室 | E会場 43番講義室 |
| | W2A2 里山昆虫談話会 | W2B2 昆虫の家族をめぐる進化生態学 第3回 | W2C2 第20回昆虫担当学芸員協議会総会「博物館は研究用標本を保存すべきか?」 | W2D2 ハナバチ談話会 | W2E2 昆虫分類学若手懇談会「比較形態学の重要性ー系統関係と形態進化の理解への貢献ー」 |
| | F会場 53番講義室 | G会場 54番講義室 | H会場 55番講義室 | I会場 56番講義室 | |
| | W2F2 寄主を操るネジレバネーその未知なる世界ー | W2G2 カマキリ学の解明に向けて | | W2I2 双翅学会 | |

一般講演

第3日目 (9月19日 月曜・祝日) 午前

| | A会場 20番講義室 | B会場 12番講義室 | C会場 13番講義室 | D会場 42番講義室 | E会場 43番講義室 |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 9:00 | A301 ○篠原明彦(国立科博)・原 秀穂(北総研 林試道東) チュウレンジハバチ類(ハチ目、ミフシハバチ科)の幼虫の多様性とその分類学的意義 | B301 磯野昌弘(森林総研・東北) 雨滴混入のない飛翔甲虫用トラップの開発 | C301 ○北條 優(琉球大・熱生研・分生研)・前川清人(富山大院・理)・齋藤 星耕(琉球大・熱生研・分生研)・徳田 岳(琉球大・熱生研・分生研) タカサゴシロアリの兵隊におけるテルベン合成遺伝子の発現解析 | D301 ○久保良平・小野正人(玉川大院・昆虫機能) 同所性マルハナバチの生殖隔離における雄蜂の香りの機能 | E301 ○西出雄大・田中誠二(農生研・バツタ研究室) トノサマバツタに出現した「短翅型」と黒眼個体の発現様式 |
| 9:15 | A302 ○小西和彦(北農研)・山岸健三(名城大)・芳田琢磨(北海道大) 日本で見つかったツツハラクロバチ科(ハチ目クロバチ上科) | B302 ○大脇 淳・金子洋平(新潟大・朱鷺・自然再生学研究セ) 森林に遷移した放棄水田の多様な管理とゴミシの多様性 | C302 ○上田昇平(信州大・山岳研)・松月哲也・野沢泰斗・関 諒一・島本晋也・市野隆雄(信州大・理) 日本産シワクシケアリの高度勾配に沿った遺伝的多様性 | D302 ○R. D. Adhikari・R Miyanaga (Shimane Univ.) Nesting behavior of <i>Anthophora plumipes</i> (Pallas) in green house (Hymenoptera, Apidae) | E302 新井哲夫(芦屋学園短大) USAの中型ノハラコオロギ <i>Miogryllus saussurei</i> の生活史 |
| 9:30 | A303 ○渡辺恭平・前藤 薫(神戸大院・農) 日本産ハマキヤドリヒメバチ族 Glyptini の分類学的研究(その2) <i>Apophua</i> 属(ハチ目:ヒメバチ科:ウスマルヒメバチ亜科) | B303 梅村信哉(福井市自然史博) 福井県内の異なる森林環境におけるハムシ類の種多様性と群集構造の季節変化 | C303 ○赤嶺真由美(弘前大)・近 雅博(京都市) 近畿地方のオオセンチコガネの集団遺伝学的構造 | D303 ○杉本周作(琉球大院・農)・立田晴記(琉球大・農) 沖縄島におけるアマミナフシの交尾器形質の種内変異 | E303 ○黒木 出(岡山理大院・総情)・太田晃平・中村圭司(岡山理大・総情) トビイロケアリのコロニー発達に及ぼす温度効果の地理的変異 |
| 9:45 | A304 ○阿部芳久・井手竜也(九州大院・比文)・和智仲是(九州大院・システム生命) ゴールを形成するヤドカリタマバチ族(膜翅目:タマバチ科)の発見とその意義 | B304 荒谷邦雄(九州大院・比文) 新しい環境指標生物としてのクワガタムシとカブトムシの利用可能性を探る | C304 ○久保田耕平(東京大・農)・永幡嘉之(山形大・医)・池田紘士(森林総研)・久保田典子(横浜市)・乙部 宏(津市)・梅津和夫(山形大・医) リクワガタ <i>Platycerus delicatulus</i> の個体群分化と後氷期の北進 | D304 ○山田大邦(札幌)・片桐千仍(東京)・宮下洋子(道文教大・人間科学)・秋元信一(北海道大院・農) ユキムシ(トドノネオオワタルリクワガタ <i>Platycerus delicatulus</i>) の綿毛発生過程についてイボタロウムシやワモンゴキブリとの比較 | E304 ○新谷喜紀・加藤慶一・小田祐司・齋藤健夫・寺尾美里(南九州大・昆虫生態) 晩秋に羽化したキオビエダシヤクは子を残せるのか |

第3日目 (9月19日 月曜・祝日) 午前 (続き)

| | A会場 20番講義室 | B会場 12番講義室 | C会場 13番講義室 | D会場 42番講義室 | E会場 43番講義室 |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10:00 | A305 ○井手竜也 (九州大院・比文)・和智仲是 (九州大院・システム生命)・阿部芳久 (九州大院・比文) アカガシ亜属に形成されるゴールから発見された新属新種のタマバチ (膜翅目:タマバチ科:ナラタマバチ族) | B305 上田明良 (森林総研・九州) エゾマツ丸太からの羽化甲虫相の天然林択伐の有無および設置高による違い | C305 ○加藤 徹 (北海道大院・理)・古川恒太 (北海道大院・農)・片倉晴雄 (北海道大院・理) 食植性 TENTOU は単系統ではないのか?:塩基配列データベースの利用から浮かび上がった問題点 | D305 ○木下峻一・佐々木 理 (東北大院・理)・溝田浩二 (宮城教育大)・長濱裕幸 (東北大院・理) X線 μ -CT技術によるアリ類標本の三次元形態解析手法の開発 | E305 ○松田隆嗣・星川和夫 (島根大・生物資) イチジクヒトリモドキとその同属種の飛翔能力 |
| 10:15 | A306 ○三田井克志 (九州大・総合研究博)・多田内修 (九州大院・農) 中央アジアにおけるヤドリコハナバチ属 <i>Sphecodes</i> (ハチ目:コハナバチ科) の分類学的研究 | B306 細谷忠嗣 (九州大院・比文) 琉球列島を北上するヤエヤマニセツツマグソコガネのトカラ列島への移入と分布拡大の状況 (続報) | C306 加藤 慎也 (信州大・理)・倉西良一 (千葉県立中央博)・○東城幸治 (信州大・理) 東アジア産ヒゲナガカワトビケラ属の分類学的諸問題 (1) 遺伝子からみた東アジアのヒゲナガカワトビケラ | D306 沢田佳久 (兵庫県博・昆虫共生) ホリカワアシブトゾウムシの幼虫 | E306 ○野口祐美子・星川和夫 (島根大・生態環境) ホシミスジ多化性集団の光周期反応 (鱗翅目:タテハチョウ科) |
| 10:30 | A307 ○細石真吾 (九州大・熱研セ)・吉村正志 (カリフォルニア科学アカデミー)・丸山宗利 (九州大・博)・山根正気 (鹿児島大・理工)・緒方一夫 (九州大・熱研セ) フクラミシリアゲアリ <i>Physocrema</i> 亜属の近縁種 <i>C. ampullaris</i> , <i>C. difformis</i> , <i>C. sewardi</i> における、働きアリ・雄アリ・女王アリの形態形質、ミトコンドリア DNA を用いた複合的な分類学的アプローチ | B307 ○藤澤貴弘・石井実 (大阪府大院・生環) 瀬田川・宇治川における放流量の操作が地表性甲虫類の多様性に与える影響 | C307 ○倉西良一 (千葉県立中央博)・加藤慎也・東城幸治 (信州大・理) 東アジア産ヒゲナガカワトビケラ属の分類学的諸問題 (2) 日本産2新種について | D307 ○野村周平 (国立科博)・小島弘昭 (東京農大)・村木朝陽 (東京農大) オサムシおよびハネカクシ上科の数種甲虫におけるふ節下面のSEMによる比較-バイオミメティクスの視点から | E307 ○菊川 茂・橋詰龍・井上侑香・坂田理紗 (富山大・理) いろいろな温度周期下でのノシメマダラメイガの羽化リズム |
| 10:45 | A308 中村剛之 (弘前大・白神研) 日本産アシワガガンボ属 (Genus <i>Tipulodina</i>) (双翅目, ガガンボ科) の分類と幼生期形態 | B308 井上大成 (森林総研・多摩) 原生林と採草地のチョウ群集の13年間の変遷 | C308 ○原 岳央 (信州大院・工)・Jeratthitikul Ekgachai (京大院・理)・矢後勝也 (東京大・博)・疋田 努 (京大院・理)・伊藤建夫 (信州大・理) クロツバメシジミ <i>Tongeia fischeri</i> の分布変遷の推定 | D308 舘 卓司 (九州大院・比文) 有弁翅亜節 (昆虫綱:双翅目) の腹部の屈曲に関する構造の形態学的研究 | E308 ○後藤慎介 (大阪大院・理)・Benjamin N. Philip・Yuta Kawarasaki・Richard E. Lee Jr. (Miami Univ.・Dept. Zool.)・Nicholas M. Teets・David L. Denlinger (Ohio State Univ.・Dept. Entomol.) ナンキョクユスリカ <i>Belgica antarctica</i> のアクアポリン |
| 11:00 | | B309 松本和馬 (森林総研) 都市の環境勾配に沿ったチョウ類群集の特性と生息種の環境選好性 | C309 ○Novkovi Biljana・木村正人 (北海道大院・環境) 琉球列島・台湾におけるショウジョウバエ3種の系統地理学的研究 | D309 新津修平 (首都大院・理工) オオミノガ終齢幼虫に見られる雄特異的な頭幅サイズの縮小 | |
| 11:15 | | B310 ○北原正彦・安田泰輔 (山梨県環境科学研) 生息場所の管理形態と植生景観の違いによるチョウ類の群集構造変異について | C310 ○福田洋之・加藤徹 (北海道大院・理) <i>immigrans-tripunctata</i> 系統に含まれるショウジョウバエの系統関係 | D310 ○清水将太 (筑波大院・生命環境)・町田龍一郎 (筑波大・菅平高原実験セ) ハサミムシ目の比較発生学的研究 | |
| 11:30 | | B311 須島充昭 (東京大・総合文化) 外來種スイセンハナアブと同属在来種の同所的な採集記録 | C311 ○上田恭一郎 (北九州自然史・歴史博)・吉澤和徳 (北海道大・農)・御前明洋 (北九州自然史・歴史博) 白亜紀後期の琥珀内チャタテムシ化石 | | |

| 第3日目 (9月19日 月曜・祝日) 午後 | |
|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | 公開シンポジウム S3A (A会場) |
| | <p>テーマ「日本の昆虫分類学、創成期の人と標本」</p> <p>企画者・世話人：大原昌宏(北海道大・総合博)・矢後勝也(東京大・総合研究博)</p> <p>S3A-1 矢後勝也(東京大・総合研究博)：東京大学所蔵の昆虫標本とその歴史</p> <p>S3A-2 大原昌宏(北海道大・総合博)：北海道大学の昆虫学の系譜</p> <p>S3A-3 多田内 修(九州大院・農)：九州大学の昆虫学コレクション</p> <p>S3A-4 吉富博之(愛媛大・ミュージアム)：愛媛大学の昆虫学：石原保</p> <p>S3A-5 友国雅章(国立科学博)：国立科学博物館の昆虫標本収集と研究</p> |
| 13:00 16:00 | 公開シンポジウム S3M (松本市中央公民館 M ウイング) |
| | <p>テーマ「子どもたちへの昆虫教育と保護・保全」</p> <p>企画者・世話人：藤山静雄(信州大・理)・田下昌志(松本むしの会)</p> <p>S3M-1 大場信義(大場ホテル研究所)：小中学校、地域連携によるホテルの里づくり</p> <p>S3M-2 市川憲平(姫路市立水族館)：放棄田ビオトープを利用した環境教育</p> <p>S3M-3 那須野 雅好(三郷昆虫クラブ)：昆虫少年を育む～三郷昆虫クラブの活動から～</p> <p>S3M-4 吉田保晴(ハッチョウトンボを育む会)：子どもと取り組むハッチョウトンボの保護活動</p> <p>S3M-5 清水敏道(東御市教育課)：北御牧でのオオルリシジミ保護活動</p> |